

編集後記

今月号は本誌20巻の最終号である。初期の頃に比べれば、内容、体裁とも随分よくなっている。これは PT・OT 界には未だ難題が山積しているものの、ここ20年間の流れを見ると大きく発展してきたことの一つの現れでもあろう。21世紀にはさらに新しい展開を期待したい。

今月号の特集は「疼痛に対する理学療法」である。歴史的に理学療法は物理的エネルギーを用いて主に疼痛の緩和を目的に活用されてきた。近年では、理学療法における主体は運動療法になっているが、疼痛の鎮痛機序について基礎および臨床的研究が進み、新たな展望が現れ、この領域の見直しが必要となっている。

高橋氏には、腰痛に対する運動療法として、PNF の適用について提示して頂いた。Rood の言う4段階の運動コントロールに区分して PNF の適用を考えると重要なポイントがありそうである。濱出氏には、経皮的電気刺激の鎮痛効果について述べて頂いた。濱出氏自身鎮痛機序に関

する研究を行っているだけに、深く掘り下げて論じてある。武富氏には、寒冷療法全般における臨床効果について述べて頂いた。なかでも、スポーツ外傷に対する寒冷療法の臨床データは貴重といえる。田口氏には臨床的に応用されはじめたレーザー療法の解説および数多くの症例に関する治療成績を示して頂いた。

第11回「理学療法と作業療法」賞・受賞論文は風間氏・他による「施設入所中の Duchenne 型進行性筋ジストロフィー症患者に対する作業療法」であった。日頃のたえない努力が伺えるような論文である。

研究と報告には進藤氏、症例報告には加藤、西森氏の興味ある論文を紹介することができた。

さて、いよいよ1986年とのお別れも間近になって来ましたが、皆様には良い年であったでしょうか。加齢とともに身体的活動水準が低下し、たとえ足腰に痛みが出て、医療人としての世界観だけは無限に拡大させたいものです。(奈良 勲)

理学療法と作業療法

(第20巻 第12号)

1986年12月15日発行(毎月1回15日発行)

1部定価 1,250 円(配送料60円)

(年ぎめ予約購読料 15,350円)
(ただし、特別増大号を含む)
(送料弊社負担)

発行 株式会社 医学書院

代表者 椿 孝雄

〒113-91 東京都文京区本郷5-24-3

電話 受付台 (03) 817-5600

本誌編集室直通 (03) 817-5703

(担当: 西塚・細田)

販売部直通 (03) 817-5659・5660

広告室直通 (03) 817-5696

ファクシミリ (03) 815-7802

振替口座 東京 7-96693番

印刷所 榊学術図書印刷 電話(03)814-4961

広告申込所 榊医薬広告 電話(03)814-1971

Published by IGAKU-SHOIN Ltd. 5-24-3 Hongo, Bunkyo-ku, Tokyo © 1986,

Printed in Japan

本誌の内容を無断で復写・複製・転載すると、著作権・出版権の侵害となることがありますので御注意下さい。

<編集顧問>

天 児 民 和
九州労災病院名誉院長

五 味 重 春
東京都立医療技術短大長

砂 原 茂 一
国立療養所東京病院名誉院長

津 山 直 一
国立身体障害者リハビリ
センター総長

(五十音順、以下同じ)

<編集委員>

上 田 敏
東大リハビリ部

荻 島 秀 男
ペインリハビリテーシ
ョンクリニック高島平
整形外科

大喜多 潤
兵庫県リハビリセンター

寺 山 久美子
東京都立医療技術短大

富 岡 紹 子
信州大学医療技術短大

奈 良 勲
金沢大学医療技術短大

福 屋 靖 子
筑波大学

松 村 秩
東京都立医療技術短大

<編集同人>

池 松 洋 子

伊 東 テル子

岩 崎 初 夫

宇都宮 誠 喜

鎌 倉 矩 子

木 村 信 子

菊 地 延 子

小 嶋 裕

斎 藤 みち子

鈴 木 明 子

高 橋 正 明

田 口 順 子

橋 元 隆

古 川 宏

松 沢 博

宮 崎 和 子

宮 前 珠 子

山 田 貞 雄

矢 谷 令 子